

平成 27 年度 第 3 回 特別支援学校における医療的ケア運営協議会 協議の概要（報告）

実施日 平成 28 年 2 月 9 日（火）

特別支援教育課

1 学校体制による人工呼吸器を使用している児童生徒への対応について

(1) モデル研究について

① モデル研究の進め方（平成 28 年度の予定）

- ・このように周到に手順を踏んでいただくことで、実際にできることが見えてくると思う。医療機関との連携も入れていただいているので、どのように連携を取ればよいかが見えていけるのではないかと思う。
- ・日程については、事務局案のとおりに進めていただく。

② 学校体制による人工呼吸器を使用している児童生徒への対応手順、様式について

- ・実施計画書について、みんなで話し合っ作成できれば、問題点は上がってくるのでよいと思う。
- ・手続きとしてはこのようになると思うが、「蘇生バッグを看護師が使用することは可能ですか」という質問でなく、「看護師が蘇生バックを使用するための練習をどのようにしたらよいでしょうか」というように進めていかないと、秋までに始まらないように思う。看護師が、モデル校の中でやることを想定しながら、そのためには、これとこれをマスターしましょうという研修をその子に対して、行うほうがよい。

緊急時対応のところに入って来ると思うが、呼吸器が作動していないときにはどうするかというと、まずは蘇生バックで対応するが、そういうことを練習していくためのマニュアルをまた別に作らなくてはいけない。それは、主治医と病院のほうで考えればよいと思う。
- ・（座長）主治医からの研修の実施は可能か。
- ・主治医が研修を実施することは特に問題はない。
- ・（座長）学校の立場からすると、ここで示された手順はどうか。
- ・実施計画書がどんなものになるかが非常に大事であると思う。この計画書の作成者は、校長であり医療的ケアコーディネーターである。そうすると、対象のお子さんに直接的にかかわっている者ではないということも出てくる。作成者の中に教員は入らなくてよいのかと思う。教員が教育の場にいるところで看護師と連携するという認識で行くと、やはり作成者のところに担当教員が入って、医療的ケアコーディネーターが入って作ったものを学校長が許可するというのも、一つのやり方だと思う。
- ・実施計画書だが、安全・安心にやっていくためには、登校して健康観察と呼吸器の点検の間くらいに、呼吸器にトラブルがあったときのための回路の予備や蘇生バック、予備のカニューレなどの持ち物の確認をしたほうがよい。
- ・（座長）各様式についてはどうか。
- ・申請の書類を保護者と学校が揃えていく時間がかかるのが実情である。実施計画書を作成するのに、大変時間がかかることが予想される。医療的ケアコーディネーターが、養護教諭などが兼務していることがほとんどなので、校内でも連携を図りながら、どうやって時間を使って保

護者と連携を取りながら作成していくかが課題。

また、看護師が複数いる学校は、ローテーションで勤務していると思うが、いろいろな手技が必要になってくることを考えると、全員がそういった手技を習得するというのはかなり難しいと思う。ある程度限られた看護師がかかわっていくような体制も必要かと思う。

- ・(座長)書類の作成については、校内でチームをつかって、手分けをして書類をつくっていくことも必要になると思う。

全部の看護師が、手技を習得するのは難しいという意見があったが、このことについて、意見をお願いしたい。

- ・本校は、看護師が常時2人から3人いる。一度にみんなで研修を受けることは可能だと思う。また、毎日日替わりだとしても、みんなで話し合うことはできると思う。
- ・(座長)研究すべきことはあるが、異論はなかったということで事務局案のとおりで次年度モデル研究を進めていただくことになるが、よろしくをお願いしたい。

③ モデル研究校

- ・次年度のモデル研究校は、稲荷山養護学校と寿台養護学校の2校とする。

2 実施体制における諸課題について

- ・(事務局)カニューレの抜去を未然に防ぐための対応について御意見ををお願いしたい。
- ・ケーズバイケースだと思うが、一つ目の事例は本人の動きがあるので、抜けやすいというのは分かっていることだと思う。穴とカニューレの間が緩めの方もいるので、そういう人は抜けやすいが、そういう人は逆に言うと入れやすい。そういうことがあるというのを一人一人が認識しているのが重要。
- ・(座長)抜け落ちたカニューレが清潔かどうかという判断をきちんとしていないで挿入するくらいなら、挿入しない方がよいという御意見をいただいた。
- ・カニューレをおもちゃのように抜いてしまう時期があった。そのときに、固定のひもがマジックテープで、そこが弱くなっていて、抜けやすくなっていた。そこで、保護者とマジックテープを新しくするという確認をしたり、上からガーゼを被せて後ろで縛って固定するとよいといったアドバイスをいただいた。その後は、カニューレ抜去はなくなった。また、教員も看護師もよく注意するようになった。
- ・(座長)カニューレ抜去については、緊急時の対応のマニュアルをきちんとしておくことを各学校に周知していただく必要がある。

3 その他

- ・呼吸器の子どものモデル研究が進んだことはありがたい。来年度も同じような内容で話し合われると思うので、深まっていけばよい。
- ・胃ろうのお子さんのスクールバス乗車についても、話題にしていただけるとありがたい。